

スキーの指導に関する理論

～主に指導方法論について～

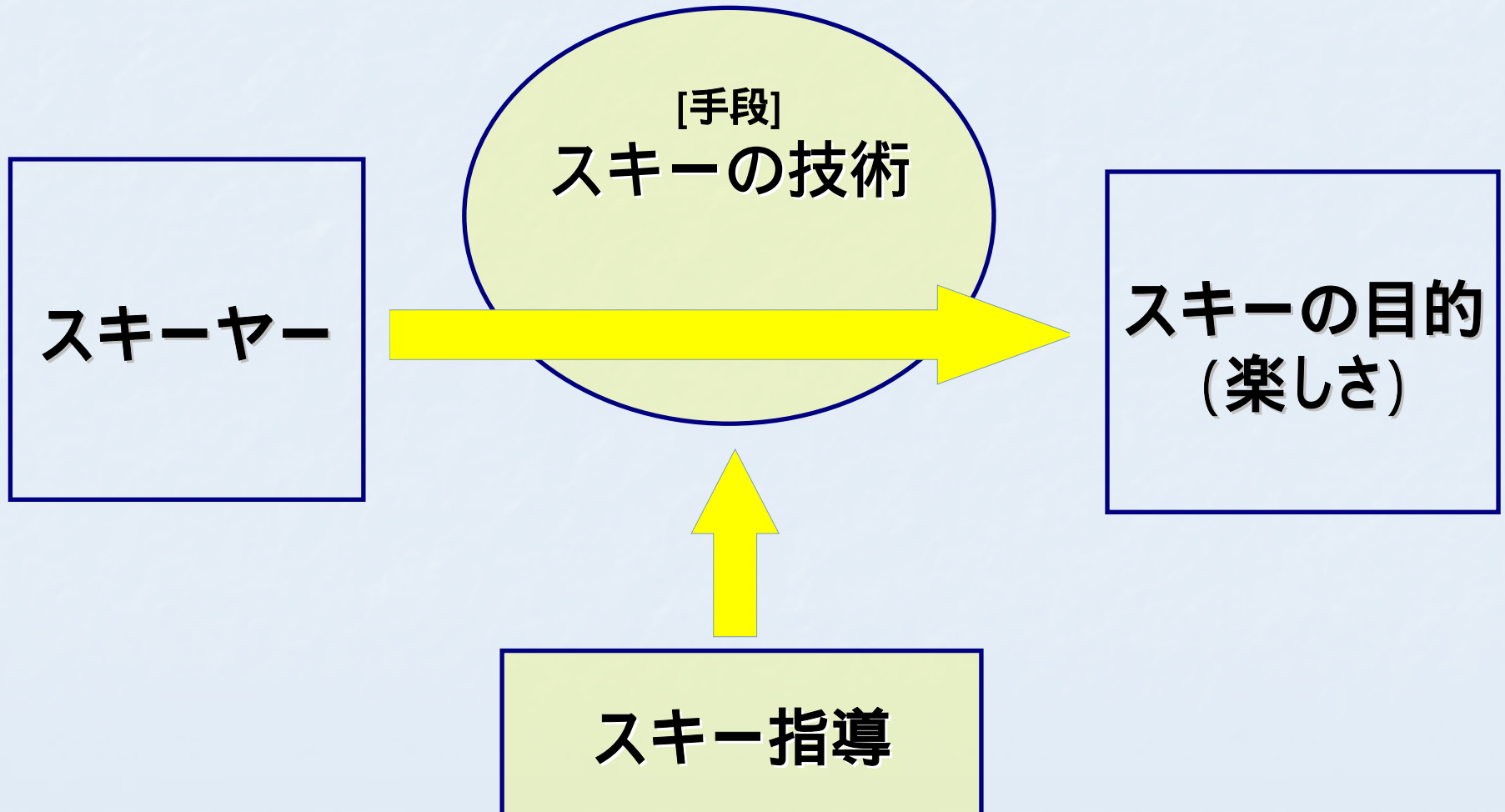
(日本スキー教程～技術と指導～ part 1・part 4)

築瀬 歩(愛知産業大学)

ayanase@asu.ac.jp

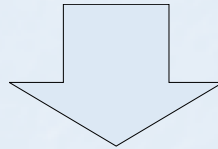
Part 1 指導の運営にあたって

スキー技術とその指導の位置づけ



スキー指導は「生き物」である！

- スキーの楽しみ方が多様化
- そのための技術が進化

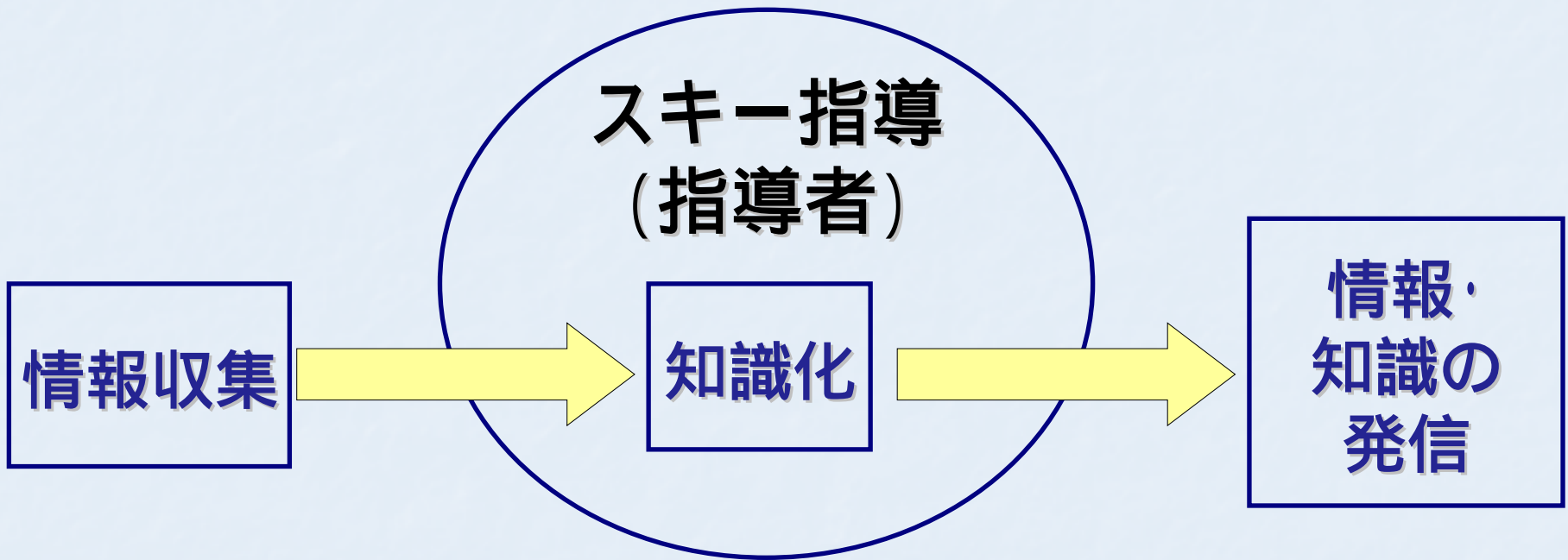


- 指導するスキー技術は多様化する。
- 指導方法は進化する。

スキー指導をとりまく環境の変化

- 「場の変化」
スキー場の整備・機能拡大
- 「物の変化」
スキー用具の性能の進歩
- 「人の変化」
スキーヤーの欲求や価値観の多様化
- 「情報化」
多大な情報への容易なアクセス

環境を受け入れるだけでなく、
環境に働きかける！



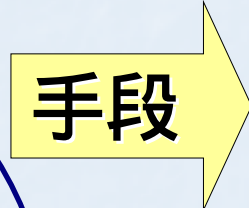
スキースポーツにおける「目的」と「手段」

周辺の楽しさ
仲間作り・人間関係etc.

コア(中核)

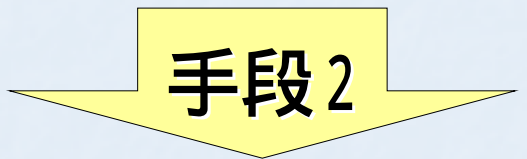
- ・克服
- ・達成
- ・競争

スキーの楽しさ(上位目的)



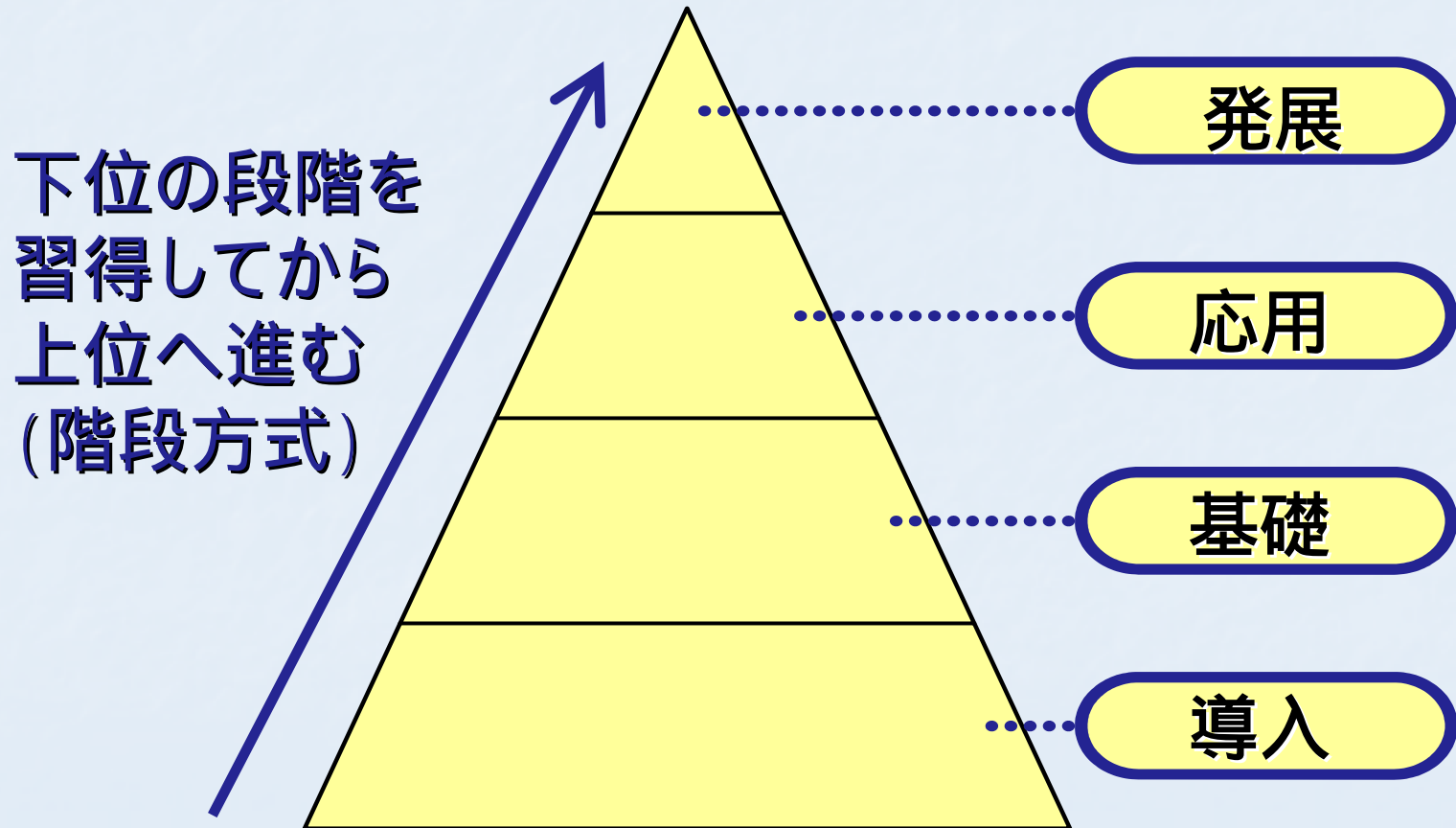
スキー技術

技術習得
(下位目的)



技術指導

伝統的な技術指導のスタイル



伝統的指導方法の問題点

- 素振りだけで終わるテニス部員の技術練習
- ドリブル・パス・シュートの練習で終了するバスケットボールの授業

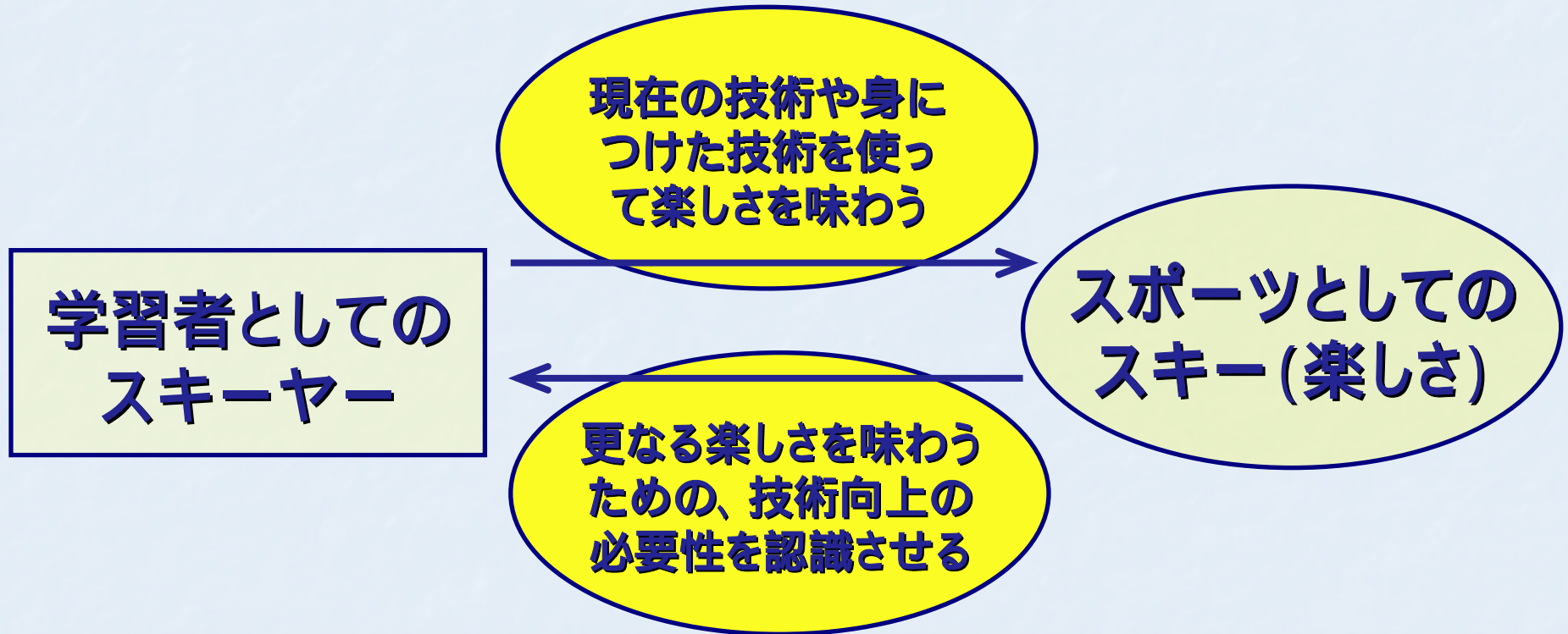
なぜ、必要なのか見えない。
楽しさを感じられない。
意欲がわかない。

そのスポーツの
本質に触れさせて
いない。

テニス・バスケット

ゲーム

「楽しさ」を鍵としたスキー学習



「はしご方式」(指導の本質性)

- 大切なのは技術の段階でなく、技術の本質性である。

例) × (段階) プルークボーゲン、シュテムターン*etc.*
(本質) テールコントロールによるターン運動

スキー指導者の資質

1. 技術力

- ・進化するスキー技術を身につけている。
- ・技術指導能力を身につけている。

2. 製品力

- ・クオリティ(品質)の高い指導
- ・スキーヤーの要求を理解し、共感が得られるような指導。

製品力を高める視点

Face to Face スキーヤーの個性尊重

Interactive 双方向コミュニケーションによる学習

Network 学習者対指導者、学習者同士の交流

Part 4 スキーの指導活動の構成について

インストラクションサービスの位置づけと役割

スキー産業

場所・施設の提供

用具の提供

サービスの提供

サービスの役割

顧客満足の充足
顧客創造

[必要な技術]
マネジメント技術
人間関係技術
指導技術

良いスキー学習の構造

■ スキー学習の基本的な考え方

「楽しさ」を体得し、自発的・主体的能力を高めることによって、「生涯にわたって継続的に参加するスキーヤー」を育てる。

■ スキー指導のあり方

学習者一人ひとりに目をむけ、学習を「支援」する姿勢が大切。

■ スキー指導の目標

スキーの「楽しさ」と、文化としての「奥深さ」を体得させること。

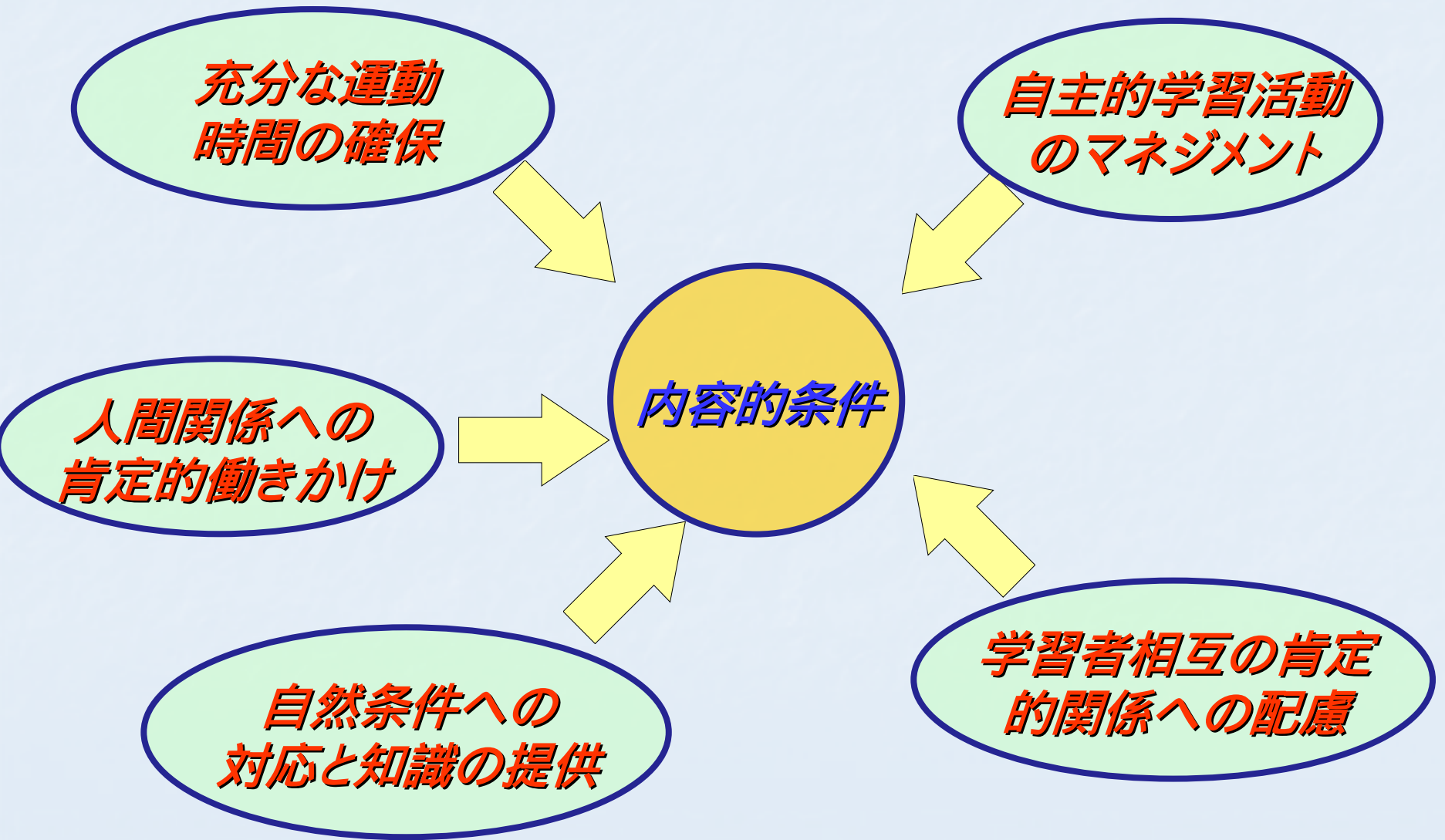
■ 学習内容

中心は、スキー行動の問題を解決する「技術の学習」と「社会的行動の学習」。認識は学習の合理性を高め、「楽しさ」や「喜び」は、学習の副産物として得られる。

■ スキー学習の構造

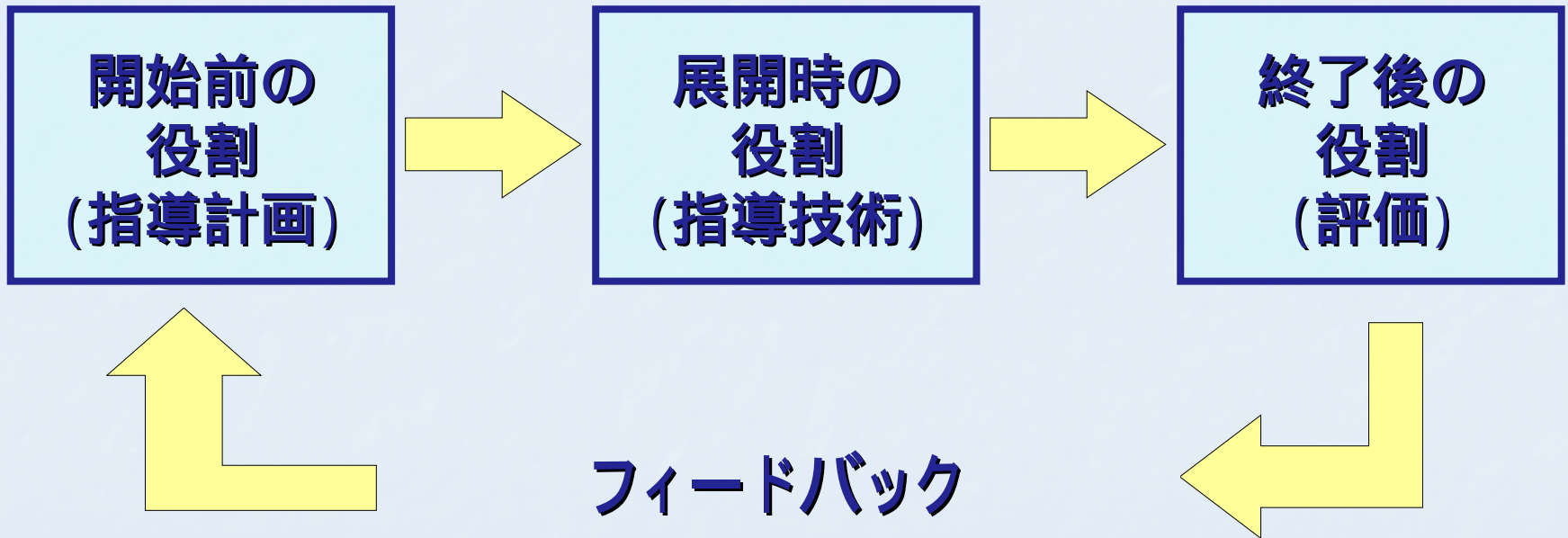
良い「内容的条件」が設定され、更に「基礎的条件」が整備されていることが重要。

良いスキー学習を実現するための基礎的条件



良いスキーマ学習のための内容的条件 (総論)

- 内容的条件の整備(指導者の役割)



良いスキー学習のための内容的条件 (指導計画)

1. 学習者の個人的条件を把握

目的意識・体力・運動歴・対人関係・装備etc.

2. 学習目標・課題を明確に設定

学習者の実態に即した目標と課題

3. 学習内容の適切な選択・設定

1) 興味・関心への配慮と能力水準に応じた課題と内容

2) 挑戦的でプレイ性に満ちた課題と内容



良いスキー学習のための内容的条件 (指導計画)

4. 有効な学習指導過程の設定

「できない できる うまくなる 強くなる」

の段階に応じた指導

5. 学習形態の計画

- 1) グループ構成人数は7～10名
- 2) 技能別グループ編成を基準に、学習者の志向への配慮

6. 評価方法の計画と評価資料の準備



良いスキー学習のための内容的条件 (指導技術)



1. 学習環境・条件の整備

学習効率と安全性を考慮した整備
特に、課題別適合斜面の選択

2. 学習形態・指導方法の選択

一斉学習・班別学習・グループ学習・個別学習
学習者の技能レベルに応じた指導形態の対応

良いスキー学習のための内容的条件 (指導技術)



3 . 技術的課題・学習方法を理解させる 指導

合理的な師範

効果的な言葉のなげかけ

視覚機器の活用

良いスキー学習のための内容的条件 (指導技術)



4. 有効なフィードバック情報の提供

動作の手がかりとなる明確なフィードバック情報
正否の判別が感覚的にできるフィードバック情報
肯定的フィードバックと矯正적フィードバック
優先的矯正点の的確な指摘
効果的タイミングでのフィードバック情報の提供

5. 課題移行のタイミングを判断する

良いスキー学習のための内容的条件 (指導技術)



6. 良好な人間関係への配慮

指導者の情熱

明るい雰囲気づくり

親しみを込めた語りかけ

学習者の性格に応じた対応

公平性への配慮

良いスキー学習のための内容的条件 (指導技術)



7. 学習者相互の人間関係への配慮

肯定的雰囲気づくりに配慮したルールの設定

予定の周知と相互に注意しあう雰囲気づくり

成果への賞賛と失敗への励ましの雰囲気づくり

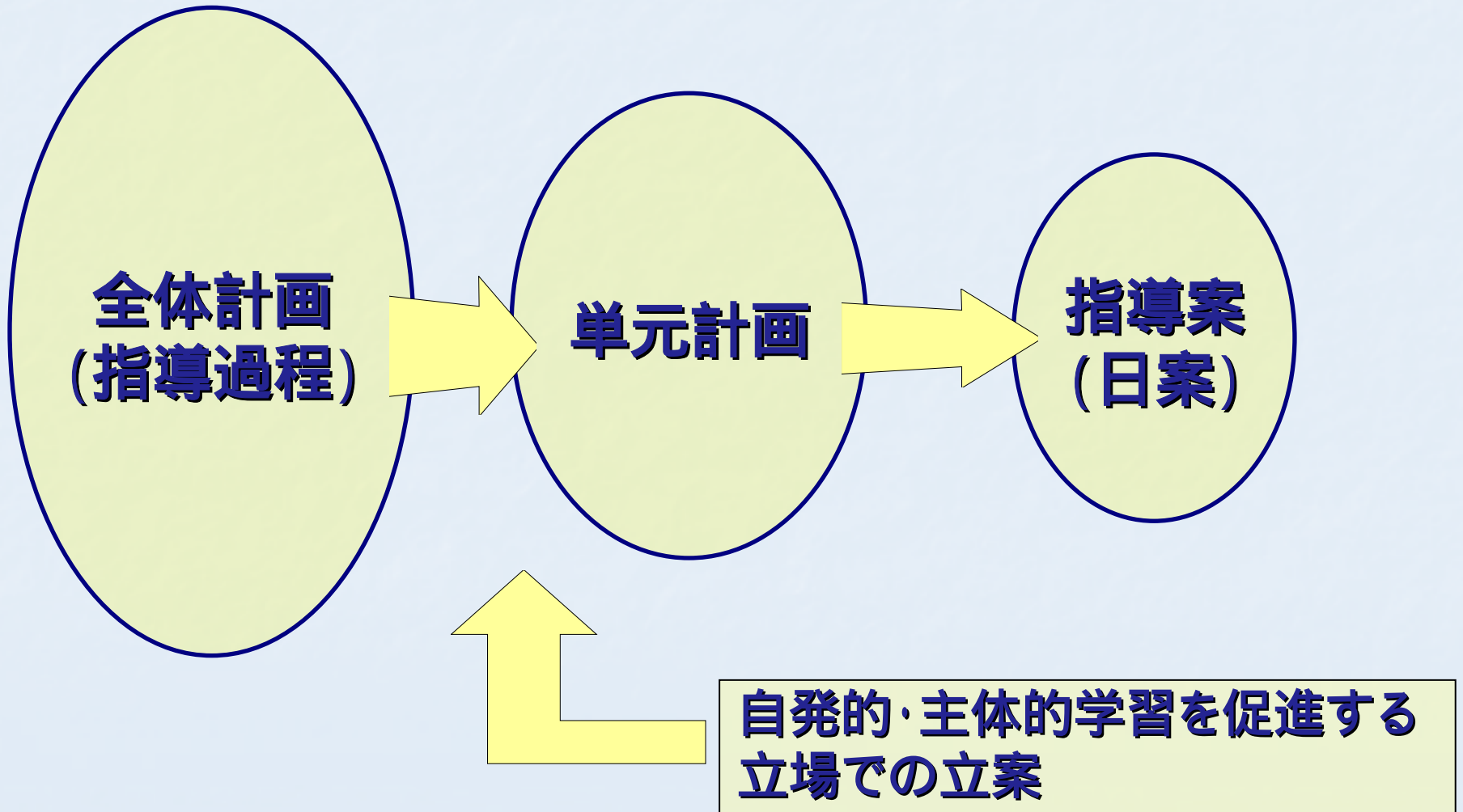
良いスキー学習のための内容的条件 (指導技術)

8 . 個々の学習者への関わりの配慮

9 . 長い距離の滑走のなかでの学習



スキー指導の計画



スキー指導における評価とその活用

1. 評価のねらい

「学習評価」と「指導評価」

2. 評価の種類

診断的評価 形成的評価 総括的評価

3. 評価の基準

絶対的評価・相対的評価・個人内評価

自己評価・他者評価・相互評価

4. 評価の実際

指導のあり方についての評価

学習者と学指導についての評価

楽しさ体験や学び方の評価

理論学習に際して

スキー指導と同様に考え、学習する。
スキー学習・スキー指導の本質を理解する
指導過程に即した細かな内容を理解する

読む、聞くだけでは理解できない。
内容のレビューができるのは理解の証し

